



平成30年度 四倉中学校

学校だより

11月16日(金) 特別号 文責 校長 鈴木 正人

今回は、6月28日(木)に実施した1年生と2年生の学力テストの結果と平成30年4月17日(火)に実施した3年生の「全国学力・学習状況調査」についての分析結果をお知らせします。

1 全国学力・学習状況調査(3年)について

(1) 全国の平均正答率との比較

国語A・Bと数学A・Bは全国平均を下回っており、特に数学Bのポイントの開きが大きい。また、今回行われた理科は、県平均と全国平均がほぼ同じだが、本校はやや下回っている。

→ 国語は、話す・聞く・書く・読み取る力をバランスよく伸ばしたい。

数学は、知識を活用する力が弱く、多角的な見方で問題に対処する力を伸ばしたい。

理科は、第一分野が課題である。得意な分野を伸ばし、苦手分野に取り組みせたい。

どの教科も、記述式の問題への対応に課題が見られた。問題文から正答を導き出す理解力を根気強く引き出したい。

(2) 領域別における課題と対応

① 国語

○ A問題

「話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す」などの“話す・聞く”の領域に関する問題や敬語や歴史的仮名遣いなどの言語知識を問う問題で正答率が低かった。

→ 授業で意見を交換する機会を設け、周りの意見を的確に理解する力を伸ばす。

○ B問題

「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」や「目的に応じて文章を読み、整理して書く」についての問題で、正答率が低かった。

→ 抽象的で難解な文章を正確に捉えることは、中学生にとって最も難しい。しかし、文章の構成を捉え、大意をつかむことは基礎的な力でも十分に可能である。

② 数学

○ A問題

「数と式」の計算に関しては全国平均同等だが、図形や関数、資料を活用する問題ではやや劣る。

→ 各領域の基礎知識の定着を図る。そのために授業の中で復習の機会を多く設ける。

また、他の単元との融合問題を扱い、前学年で学んだ内容の理解を深める。

○ B問題

図形は、全国や県の平均を下回った。特に「説明する問題」や「数式の意味を解釈する問題」を苦手としている。

→ 「何を求めようとしているのか」など、数学的な見方や考え方をを用いる問題を苦手としているので、問題を読み取り、論理的に処理する力を授業で身につくように指導する。

③ 理科

全国・県並みの正答率である。ただ、長い説明を回避する傾向が見られるので、科学的な表現力を高めるため、実験方法や結果の解釈などを自分の言葉で説明させる機会を増やす。

2 学力テスト(1・2年)について

(1) 1年(6月28日、国語、数学、英語、理科、社会の5教科で実施)

① 分析結果

すべての教科において県平均を上回っている。特に理科と社会は県平均を大きく上回っている。各教科ともに、平均を上回る生徒は多いものの、9割を超える点数をとるような上位の生徒は少ない。

② 今後の対応(各教科から)

○ 国語

基礎的基本的な力は十分に身に付いている。一方で、文章把握においては、内容理解に

課題が残る。文章の内容を的確に捉えるために、語彙力を増やしたい。

○ 数学

どの領域においてもおおむね定着している。授業で基礎的な内容の確認をするとともに、複合問題に対応できるような練習問題をたくさん解かせる。

○ 英語

文の構成、対話文の読解、長文理解では、約6割の正答率である。しかし、英文を聞いて単語を書くことや適語補充の問題の正答率が低かった。英語を聞く時間を増やすとともに、習熟度別問題を与え、単語力をつける。

○ 理科

実体験（観察・実験）を通した内容については定着率が良い。今後は、授業の振り返りを充実させ、副教材等を活用し基礎・基本の定着を図る。

○ 社会

地理の理解度は高く、基礎基本が定着している。歴史への興味・関心は高いが、理解度につながっていない。特に、国外の歴史に関する正答率が低いため、今後は日本と世界のつながりを意識した歴史の授業を展開する。

(2) 2年（6月28日、国語、数学、英語、理科、社会の5教科で実施）

① 分析結果

校内平均点は、どの教科も県平均と同等であった。

理数は男子の平均点が高く、国語、英語、社会は、女子の平均点が高い。

② 今後の対応（各教科から）

○ 国語

正答率の低かった言語事項（漢字の書き取りやことわざ）や詩の表現技法などは、確実に知識として習得できるよう、機会があるごとに繰り返し指導する。

○ 数学

計算問題は県内の正答率を10%以上上回るが、解決までに手順を踏む問題はつまずきが見られる。授業では、求めるまでの手順を丁寧に示し、問題に取り組むよう意識させる。

○ 英語

リスニング、対話文や長文読解の内容理解や適語の選択問題の理解度は高い。放送を聞き取って書く問題や重要表現の並べ替え問題、英問英答問題などは、達成率が低い。そこで、基本文の定着の徹底や作文のポイント解説などを適宜行い、正答率を高める。

○ 理科

地震や気体の性質で高い定着が見られる。一方で、同じ地学の内容でも岩石については定着が低い。化学変化と熱の関係は興味を持ち実験に臨んでいたのが高い定着が見られるが、化学変化を化学反応式で表すなど、化学式の暗記などで苦手意識が強い様子が現れた。

今後、暗記が多くなる単元は、振り返りの豆テストを活用するなど工夫する。

○ 社会

平均的に正答が得られたが、テスト範囲の直前に学習した江戸時代の内容の定着が十分ではなかった。基本事項の語句を中心とした教科書の読み取りとノートのまとめを日々の復習で活用し、問題演習を取り入れるなど、基本の定着を心がける。

3 本校としての学力向上へ向けた取り組みについて

生徒の基礎基本の確実な定着を図るため、次のことを継続的に実践する。

(1) 教室内の整理整頓に努めて学習環境を整え、2分前着席を徹底し、落ち着いた雰囲気での授業が開始できるようにする。

(2) 校内の互見授業を実施し、反省事項や意見を生かし指導力を向上させる。

(3) 授業の導入段階で、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の設定の工夫をする。

各教科で、本時の「めあて」を提示する。

(4) 授業の展開段階で、生徒どうしが学び合い、高め合うことのできる学習活動を積極的に取り入れて生徒の表現力や思考力を育てる。

(5) 授業時は生徒にとってわかりやすい板書を工夫することで知識の定着を高める。

(6) 学び合う学級集団形成(学級経営)と家庭学習を充実させるため保護者への啓蒙を図る。